

Q1.MRSAマニュアルを作成する予定だが、特別な対応としてどのような内容があるのか？

A1.施設での感染対策としては、標準予防策をしっかりと実施することが先決です。急性期病院では、必要に応じて入室時に手袋やエプロンを着用するなどの接触感染対策を実施していますが、施設ではそこまでの対応が困難なため、標準予防策をしっかりと行うことで対応できると思われま

す。MRSA がどこから検出されているのかはチェックされていた方がよいと思います。例えば、喀痰から MRSA が検出されている利用者の喀痰量が増えたり、咳がよく出るなどの症状がみられる場合は、平素の対策より念入りに環境清掃を行うなどの対応ができます。

Q2.感染マニュアルに沿って行動しているが、感染経路が不明なまま拡大していく時がある。注意点・予防法について知りたい。

A2.どの菌が拡大しているのかによって対応が異なります。菌の感染経路、特徴、発症者に共通しているケアなどを調査します。

例えば、冬季に多い「感染性胃腸炎（ノロウイルス）」の場合は、接触感染で感染が拡大していきます。ウイルスの特徴としてアルコールが効きにくい

ため、便や吐物の処理を行うときは標準予防策を遵守し、処理後は必ず石けんと流水で手洗いを

する必要があります。多くのアウトブレイク（集団感染）は、標準予防策が破綻することによって起こっています。平素より、手洗い、防護用具の使用徹底などの標準予防策を遵守することが最大の予防策です。

Q3.感染対策委員会、リンクナースなどの体制は整いつつあるが、リンクナース自身の知識統一や各部署でどのようにスタッフ教育・指導をすべきか困っている。特に、ラウンドでは、毎回、標準予防策の不十分さを指摘されている中、一時的に改善したように見えても継続性に欠け、また同じ状況がおこっている現状。

A3.どこの施設でも、同じ悩み・問題を抱えています。ラウンドで標準予防策の実施状況をサーベイランスし、現場へフィードバックすること自体が、感染対策を継続させるためのひとつの取り組みになります。

リンクナース自身の知識レベルを上げるために、研修の実施と個人で現場での取り組みを行う方法があります。また、リンクナース委員会で一つの目標を決め、一斉に同じ取り組みを行う方法もあります。

繰り返し継続的に行うことで、現場での実践状況は少しずつ良くなってくると思われま

Q4.全職員にノロウイルス感染対策の周知徹底について、どのような指導方法が効果的なのか？

A4.ノロウイルスの感染経路、特徴について研修を行います。必要な処置に合わせて、標準予防策＋感染経路別予防策の実施についても指導します。

実際に行ってみることで印象に残ることが多いため、模擬吐物を使用して嘔吐物の処理方法をデモンストレーション＋実践する方法もあります。その際、防護具の適切な使用方法についても合わせて指導することが重要です。